

佐久市保健福祉審議会児童福祉部会 会議録

日時：平成 28 年 8 月 8 日（月）

時間：14：30～15：30

場所：佐久市役所 501 会議室

出席者

児童福祉部会委員

浅井 莊一郎、小林 政徳、石山 道泰、宮沢 秀一、小林 喜久男、両澤 正子、
春日 利夫、並木 敏貴、林 さと美、荻原 さき子、谷口 裕久

欠席者

高野 吉章、藤巻 崇、速水 毅

事務局

小林 一三（福祉部長）、角谷 秀敏（子育て支援課長）、平林 照義（子育て支援係長）、小根山 史（保育係長）、青柳 孝行（施設整備係長）、佐藤 直哉（子育て支援係）

1 開 会

・子育て支援課長よりあいさつ

2 委嘱書交付

・任期について、平成 29 年 8 月 26 日までであることを説明

3 小林部会長あいさつ

4 福祉部長あいさつ

5 協議事項

（1）「保育所のあり方について」

質疑、意見等

（委員）

社会経済情勢の変化とはどのようなことを想定しているか。

（事務局）

子ども子育て支援事業計画等国の制度の見直しがあった場合はその都度対応する。
また、景気上昇や共働き家庭の増加、国の制度改正等様々なことが予想される中で必要に応じて常に見直しをしていく必要がある。

（委員）

特別保育の状況に関連し、支援が必要な子どもに対して保育園と医療機関、家庭が連携

し、総合的に支援していく必要がある。

(事務局)

佐久市では療育支援センターがあるが、平成 26 年度以降登録児童 100 人超、毎年約 10 人ずつ増加しており、新たな受け入れは困難な状況にある。さらなるセンターの充実に向けて福祉分野との連携や臨床心理士等の人員確保等について整備していく。

(委員)

障害児保育に関連し、支援が必要な子どもが増えている原因は何か。

(事務局)

具体的な原因はわからないが、現状をふまえて様々な部署間の連携が必要である。発達障害の認識が広がり、理解が進んできたことが療育支援センターの利用増につながっていると考えられる。

(委員)

家庭や社会が一体となって、支援が必要な子どもの特徴を理解していくべきである。

(委員)

発達障害が増えている原因は不明であるが、家庭基盤の脆弱、親の養育力不足、貧困家庭の増加など、様々な理由が考えられる。保育士や保護者向けの障害に対する研修も今後重要性が増す。

(委員)

虐待を受けて育った親は自分の子にも虐待をしてしまう傾向にある。
親にとって一番身近な存在は保育士であるので、研修等で理解を深めてほしい。

(2) 「統合保育園開設に伴う定員の設定について」

(事務局)

平賀・内山地区新保育園の定員を 160 人に設定。
望月地区新保育園の定員を 170 人に設定。

質疑、意見等

(委員)

定員に関しては、地元説明会でも同人数で報告しているか。

(事務局)

同人数で報告済である。

6 報告事項

(1) 「平成 27 年度子ども・子育て支援事業計画の実績報告について」

(事務局)

平成 25 年度の数値をもとに平成 31 年度までの目標数値を設定。目標数値は実態を鑑み変更しており、変更箇所について説明。

質疑、意見等

(委員)

支援事業計画の内容を全て把握している人は少ないと思うが、周知の仕方はどうしているか。

(事務局)

幅広い年齢層を対象としているため、個々に周知することは困難であるが、チラシや広報誌などを活用して周知している。

(2) 「平成 27 年度児童虐待相談対応件数について」

(事務局)

長野県全体、佐久児童相談所管内、佐久市福祉事務所ごとの相談対応件数、佐久市福祉事務所における相談内容について説明。

質疑、意見等

特になし

(委員)

児童相談所の相談件数も年々増加している。特に心理的虐待が多く、子どもの面前での夫婦喧嘩なども含まれている。

7 閉 会